

### 【本資料5月22日更新版について】

3月26日、国立教育政策研究所のホームページに、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』が公開されました。その内容を踏まえて、以下、2点を変更のうえ、更新版をアップいたします。

#### 1. 「学習指導要領の内容との関連」の◎と○の示し方について

弊社発行の「小学生の音楽」教科書の題材構成において、

各題材は、「何を中心に学習し、どのような子供の資質・能力を育てるのか(=どのような観点で評価するのか)」という目標にそって教材が配列されています。

したがって、「A表現」(1)歌唱、(2)器楽、(3)音楽づくりのA、イ、ウの各事項、「B鑑賞」のA、イの指導事項は、

各題材内の中で〔共通事項〕を要として教材どうしがつながり、ときに往還し関連しながら、指導されるように配慮されています。

また、学期ごとや1年間を通して、各観点がバランスよく位置付けられ、題材間の関連が図られているか、という視点にも配慮しています。

それらを踏まえ、別資料「指導計画案」との関連がより明確になるように、◎と○の示し方を、下記のとおり変更いたしました。

■当初アップした資料：各教材の学習において中心となる指導事項を◎で示し、関連する指導事項を○で示す

↓

■今回の更新版：【評価に関わっている】指導事項を◎で示し、それ以外の【学習を進めるうえで関わる】指導事項を○で示す

また、下記の教材については、

別資料「指導計画案」において、評価の観点を追加したため、本資料には「◎」が追加されています。

■2年生「かぼちゃ」

■3年生「まほうの音楽」

■4年生「楽しいマーチ」、「陽気な船長」

■5年生「打楽器でリズムアンサンブル」、「キリマンジャロ」

■6年生「ラバーズ コンチェルト」、「ボイスアンサンブル」、「メヌエット」

#### 2. 題材から独立された歌唱共通教材について

「楽曲による題材」と捉え、当該楽曲の学習の位置付けを示し、指導事項アイウが網羅できるよう、評価の観点を加えました。

### 【本資料について】

- ・本資料は、教育芸術社発行の令和2年度用小学校音楽教科書「小学生の音楽1～6〈102～602〉」に基づいて作成されています。

### 【題材の目標の書き方について】

- ・各学年の題材の目標は、学習指導要領（平成29年告示）に示されている、育成を目指す資質・能力の三つの柱、
  - （1）「知識及び技能」の習得に関する目標
  - （2）「思考力，判断力，表現力等」の育成に関する目標
  - （3）「学びに向かう力，人間性等」の涵養に関する目標の視点に基づいて作成しています。
  - （1）について、文章の前半では表現及び鑑賞の知識に対応する内容を、後半では表現の技能に対応する内容を示しています。

### 【指導する月の目安について】

- ・本資料で示されている扱いは目安となります。2学期制と3学期制それぞれ示しておりますので、各校の実態に応じて、指導される月や学期を調整のうえ、ご活用ください。  
(※新型コロナウイルスの感染防止に向けた緊急事態宣言による休校等の影響に対する資料については、  
弊社HPの「臨時休校に伴う4月以降の授業対応について【小学校】」の内容もあわせてご覧ください。)

### 【扱い時数の目安について】

- ・教育課程で標準とされる授業時数に即し、各題材や「みんなで楽しく」などの巻頭・巻末教材も含めたかたちで、扱い時数を設定しています。
- ・巻末教材に配当された時数については、巻末教材を本文中の題材と関連付けて取り上げる場合や、授業時数に調整の必要が生じた場合などにおいて、扱い時数を調整するためにご活用ください。
- ・国歌「君が代」につきましては、『国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導すること。』と示された学習指導要領の趣旨にしたがい、各校の実態に応じて学習内容や扱い時数をご設定ください。

### 【〔共通事項〕に示された音楽を形づくっている要素について】

- ・太字で示されたものは、題材内で中心となる音楽を形づくっている要素になります。























第6学年 年間学習指導計画作成資料						学習指導要領の内容との関連 (ア: 思考力, 判断力, 表現力等 イ: 知識 ウ: 技能 に関する資質・能力)													
【第5学年及び第6学年 目標】 (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしよとする態度を養う。						A 表現									B 鑑賞		【共通事項】		
扱い月のめやす	扱い時数 合計 50	題材名	題材の目標 (1)「知識及び技能」の習得 (2)「思考力、判断力、表現力等」の育成 (3)「学びに向かう力、人間性等」の涵養	学習目標	教材名 ○…歌唱 ◇…器楽 ☆…音楽づくり ♪…鑑賞 (共)…共通教材	歌唱			器楽			音楽づくり			鑑賞		ア 音楽を形づくっている要素	イ 音符、休符、記号や用語	
						ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ			
年間	2	巻頭		時代をこえて受けつぐ歌舞伎のころ	市川猿之助さんからのメッセージ														
			心をつなぐ歌声	年間を通して愛唱したり、歌う楽しさを味わったりするための教材。	○つばさをください	○	○	○	○	○									
4	4	5	1. 歌声をひびかせて心をつなげよう	(1) 音色、速度、旋律や歌詞の内容などと曲想との関わりについて理解し、それらを生かした歌い方や、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。	・明るくひびきのある声で歌いましょう。	○	○	○	○	○								音色 速度 旋律 強弱 音の重なり フレーズ 呼びかけとこたえ	速度記号
				(2) 音色、速度、旋律や歌詞の内容などと曲想との関わりについて考え、言葉や旋律のまとまり、発音や声の出し方などを工夫し、曲想にふさわしい歌い方について思いや意図をもつ。	・歌詞の表す情景を思いうかべながら、曲想にふさわしい歌声で歌いましょう。	○	○	○	○	○									
5	5			(3) 曲想や歌詞に込められた気持ちを味わって、歌声に気を付けながら曲想にふさわしい表現を工夫する学習に主体的に取り組み、友達と協働して音楽活動をする楽しさを味わう。	・曲想にふさわしい歌声で歌いましょう。	○	○	○	○	○	○								
6	6	7	2. いろいろな音色を感じ取ろう	(1) 音色、リズム、旋律、音の重なりなどと曲想との関わりについて理解し、楽器の音の重なり合う響きを味わいながら音を合わせて演奏する技能や、声の響きが重なる面白さを生かして音楽をつくる技能を身に付ける。	・オーケストラのひびきを味わいながらききましょう。												音色 リズム 旋律 音の重なり 反復 変化 音楽の縦と横との関係		
				(2) 楽器の音色の特徴を生かした演奏の仕方や声の響きの重なり方を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、楽器の多様な組合せから生まれる曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	・パートの役割や楽器の音色の特徴を生かして合奏しましょう。														
7	7			(3) いろいろな音色が重なって生まれる響きに興味・関心をもち、それらを生かして表現したり聴いたりする学習に主体的に取り組む。	・声のひびきが重なるおもしろさを生かして、音楽をつくりましょう。														
7	7	3	3. 旋律の特徴を生かして表現しよう	(1) 旋律、リズム、フレーズや歌詞の内容などと曲想との関わりについて理解し、呼吸や発音の仕方に気を付けて響きのある声で歌う技能や、音色や響きに気を付けて互いの音を聴いて演奏する技能を身に付ける。	・歌詞と曲想との関わりに気を付けて歌いましょう。	○	○	○	○								音色 リズム 旋律 強弱 音の重なり フレーズ		
				(2) 旋律、リズム、フレーズや歌詞の内容などと曲想との関わりを生かして表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。	・旋律のまとまりに気を付けながら演奏しましょう。														
9	9	8	4. いろいろな和音のひびきを感じ取ろう	(1) 旋律、音の重なりや和音の響きなどと曲想との関わりについて理解し、互いの声や音を聴き合いながら合わせて表現する技能や、和音に含まれる音を使って旋律をつくる技能を身に付ける。	・歌声が重なり合うひびきを感じ取りながら合唱しましょう。	○	○	○	○								リズム 旋律 音の重なり 和音の響き 調 音楽の縦と横との関係		
				(2) 和音の響きの移り変わり、短調と長調の響きや旋律の重なり方の違いなどと曲想との関わりについて考え、それらにふさわしい表現の仕方を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。	・和音のひびきの美しさを味わいながら演奏しましょう。														
10	10			(3) 和音の響きの違いや移り変わりを生かして表現したり、つくった旋律を発表し合って気付いたことなどを伝え合ったりする学習に主体的に取り組む。	・和音にふくまれる音を使って旋律をつくりましょう。														
10	7	5.	5. 曲想の変化を感じ取ろう	(1) 速度、強弱、音の重なり、変化や歌詞の内容などと曲想との関わりについて理解し、互いの声や音を聴き合いながら表現するなど、曲想にふさわしい表現をするために必要な技能を身に付ける。	・曲想の変化を味わいながら、思いをこめて歌いましょう。	○	○	○	○	○							音色 リズム 速度 旋律 強弱 音の重なり		

